

2021年度 学校評価総括表

伊丹市立緑丘小学校

教育目標		人間性豊かな、たくましく生きるみどりの子の育成						
重点目標		①「確かな学力」を育むために ②「豊かな心」を育むために ③「健やかな体」を育むために ④安全で安心な学校づくり、環境整備 ⑤開かれた学校づくり ⑥教職員の働き方改革について ⑦「生徒指導体制」づくりのために						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の確実な定着により自ら学ぶ意欲の向上</li> <li>授業力の向上と授業改善を目指した授業公開の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニプリントの活用・少人数授業を実施し、基礎・基本の定着、学力の向上を図る。</li> <li>『考える楽しさを大切にする授業づくり』について職員で研究を深め、授業力の向上と授業改善を目指した授業公開を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語力の向上をめざし、「ことばの学習の時間」（3年～6年生）を年間30時間実施する。</li> <li>授業公開・事後研究会を年間4回、市指定研究発表会、スキルアップ研修会（年間6回）を実施し、授業力の向上を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニプリントや復習プリントを活用し、算数・国語の基礎・基本の力をつけることができた。学習した後、期間が空くと忘れていた様子は、今年度も見られ、繰り返し学習させるようにした。</li> <li>児童が意欲的に取り組めるような課題を設定することができた。児童の振り返りを、授業で学んだこと、めあてが達成できたか等を意識して書かせたり、自己評価カードを活用したりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ミニプリントや復習プリントの活用・少人数授業を実施する。繰り返し学習し、学習内容を定着させられるように、タブレットでの課題など、実態に応じた問題を用意し、取り組ませたい。</li> <li>コロナ対策をしながらの授業のため、ペアやグループ学習に制限があるが、児童の実態に応じた授業研究・授業改善を進め、きめ細やかな支援のあり方を考えていく。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業に対して、子ども達の過半数が「国語が好きでない」と答えているので、対策が必要である。子ども達が、国語を好きになるような工夫を。</li> <li>可能な範囲でご対応をお願いしたい。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力の育成を図り達成感を味わい粘り強く学習できる力の育成</li> <li>読書活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。</li> <li>始業前の読書タイム及び図書の時間を週1回設ける。読書記録カードに記録する。</li> <li>4年生以上は、読んだ本のページ数を読書記録カードに記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを相手に伝えるように書くこととする。</li> <li>発表の内容に広がりや深まりが見られる。</li> <li>読書活動を充実させ、一人あたりの月平均貸出冊数が7冊を超えることをめざす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じて、自分の考えを相手に伝えるように書くことができていた。友だちの考えを聞き、自分の考えをより深めることができる児童が多く見られた。</li> <li>児童アンケートでは、「読書タイムや図書の時間にすずんで本を読もうとしていますか。」の回答が89.5%であった。一人あたりの月平均貸出冊数も7冊を達成している。（長期休業日を含めず）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。</li> <li>引き続き始業前の読書タイムや図書の時間を週一回設けていく。また、読書記録カードの取り組みも続けていく。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>読書が好きになるきっかけ作りが、必要と考える。</li> <li>家庭とも連携して、読書時間の拡充をお願いしたい。</li> </ul>
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>共に学び合う楽しさを感じさせる授業による学習意欲の向上</li> <li>どの児童もわかる授業の創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを伝え合う活動を授業に取り入れる。</li> <li>課題を工夫したり、具体物を操作したり、表現方法を工夫したりする活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの中で考えを伝え合いながら、学習に意欲的に取り組もうとする。</li> <li>わかる授業づくりを工夫し、児童アンケートにおいて「授業は分かりやすい」の回答が90%以上をめざす。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が考えを出し合う活動に、スムーズに取り組んでいた。意見を出し合う中で、話し合いを深めることができていた。</li> <li>児童アンケート「授業はわかりやすく楽しいですか。」の回答が88.1%、保護者アンケート「学校で学習したことを理解していますか」の回答が90.8%であった。職員全体が研究テーマの共通理解を図り、研究に取り組んだ成果が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、話し合い活動の効果的な取り入れ方を考える。</li> <li>児童の実態を把握し、学びを深めるための授業づくりの方法を研究していく。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい授業は基本だと思う。是非、継続して研究してほしい。</li> </ul>
豊かな心・健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を大切に、思いやりに満ちた子の育成及び、児童の問題行動への対応</li> <li>基本的生活習慣の定着（生活指導の充実）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳や人権の授業等を通じて、命やお互いを大切にし相手を思いやることのできる子どもの育成を行う。</li> <li>事例に応じ、職員全体で共通理解し、対応する。</li> <li>みどりっ子のきまりや月間生活目標、緑小しぐさ「あろは」の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳、人権の授業後の感想で、自分を大切にしたり、相手の心情を考えたりする気持ちの深まりが見られる。</li> <li>児童の実態を話し合う場を月1回以上設定する。</li> <li>きまりを守り、児童アンケートにおいて、「月間生活を目指して生活できている。」と回答した割合が80%以上になる。</li> <li>緑小しぐさ「あろは」を意識して行動し、安全に生活できるようになる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの「家庭では思いやりや命の大切さについて話題にしていますか。」については、前年度と比較すると1.8%上がっている。しかし、児童アンケートにおいて、「自分を大切にしたり、相手の気持ちを考えて行動している。」と回答した児童の割合は前年度と比較すると若干下がっている。そのため、自尊感情を高める教育活動の推進については、今後も行っていく必要がある。</li> <li>児童アンケートの結果は80.5%で当初の達成目標はクリアし、取り組み初年度としてはまずまずの結果だが、前年までの「あろは」に比べると達成度は低く、今後の取り組みの改善が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感、自己有用感を高める教育活動の推進を引き続き行っていく。</li> <li>どうとくノートを活用し、道徳教育の必要性を保護者に啓発するとともに、学校と家庭の協力体制を進めていく。</li> <li>教師自身も、リフレーミング練習（肯定的な言葉かけ）をしていき、児童の見本となっていくように心がける。</li> <li>まず、先生方に毎月の生活目標を周知し、しっかりと知ってもらい、指導が行き届くようにする。毎週末などに、守れているか取り組んでいるかのフィードバックを行い、その後の児童の生活に意識付けをしていくことが必要。</li> </ul>	評価 B <ul style="list-style-type: none"> <li>教育長もしきりに「自尊心を大切に教育」と言われる。家庭教育が大切であると思われる。家庭との連携も大切である。（子どもは親の鏡。自分勝手な親からは、自分勝手な子が育つ。）</li> <li>定期的に告知しながら、家庭と協力して道徳教育の啓発をお願いしたい。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回、アンケート調査を実施し、教育相談を行う期間を設け、実態調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態を出し合い、検討する機会を大切にします。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果でのいじめ認知件数は第1回が60件、第2回が75件だった。この結果に基づき、いじめ対策推進委員会を開き、対応・対策について話し合い、教育相談・指導を行った結果、第1回は継続支援が13件で第2回は継続支援が6件だった。今後も児童の実態を出し合い、検討するとともに、日常的に全職員が見守っていく意識を持ち、学級経営に臨むことが必要である。</li> <li>必要に応じていじめ対策推進委員会を設けた。特に、事例発生時は早急にいじめ対策委員会と連携し、早期対応を徹底し、解消・解決を図る事の必要性を感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月例で行っている相談部の定例会での児童の様子情報の交換を、今後も継続していく。</li> <li>児童との関わりや、見つけ方などを全職員ですらに研修していく必要がある。</li> <li>いじめへの対応を全職員で組織として取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめは、初動が大切である。</li> <li>しっかり見守りをお願いしたい。</li> </ul>
豊かな心・健やかな体	健やかな体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な体づくり・体力向上</li> <li>望ましい食習慣の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察を毎日行う。</li> <li>ほけんだよりを用いて保健指導を行う。</li> <li>児童保健委員会による全校生への広報活動を行う。</li> <li>業間休みに多くの児童が外に出られるように、体育委員会を通じて、遊びの紹介を行う。</li> <li>運動の紹介ビデオを作成し、児童の意欲を高める</li> <li>栄養教諭による「食の指導」を紙面で実施する。さらに、給食センターから送付される食に関する掲示物を掲示する。</li> <li>食育だより（一言コメント）を掲示するなどして、活用する。</li> <li>給食委員会による全校生への広報活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察を毎日1回行う。</li> <li>ほけんだよりを用いて、保健指導を月1回実施する。</li> <li>児童保健委員会にて年に1回、健康な生活についての広報活動をする。</li> <li>「休み時間、外で遊ぶ」とアンケートに答える児童が75%になる。</li> <li>季節の食材を知ったり、栄養について考えたりする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察表により毎朝健康観察を行った。</li> <li>職員アンケートで「ほけんだよりを用いて保健指導をしている」の項目が去年度より減った。</li> <li>児童保健委員会では長期休業中の歯みがきカレンダー、委員会だよりや劇・クイズなどで広報活動をした。</li> <li>様々な健康課題や感染対策について、全職員で共通理解を図り、指導していく意識が必要であると思われる。</li> <li>去年度よりもアンケートで答える児童が減ってしまった。</li> <li>コロナ禍のなか、長縄大会、ドッジボール大会など行うことが出来なかった。</li> <li>遊び紹介、運動紹介のビデオを放送した直後は、紹介されたことをしている子どもたちが見られた。</li> <li>栄養教諭による「食の指導」を実施した。さらに、給食センターから送付される食に関する掲示物を、菜の花文庫廊下に掲示した。</li> <li>委員会の活動では、一言コメントの内容をポスターにした。各フロアの掲示板に掲示し、啓発した。また、食育に関するクイズを作成したり、食器などの返し方を中心に全校生に見直してもらいたいところを話し合ったりして、動画を作成した。</li> <li>放送委員に協力してもらい、食育放送を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりを用いての保健指導に関しては、12月から月別目標に関する記事で「担任の先生と考えてね」コーナーを作り、書き込んでから配布する形へ変更した。今後も継続していく。</li> <li>児童が外に出たくなるような器具などを設置し、意欲的に外に出れるような環境作りに取り組む。</li> <li>〇〇週間など子どもたち個人でも取り組める活動を取り入れる。</li> <li>季節の食材や栄養、給食に興味をもってもらえるように、給食委員会を中心に全校生に引き続き伝えていきたい。</li> </ul>	<p>評価 B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも、外で遊べる種目や競技を検討して、子ども達の体力保持を図ることが大切である。</li> <li>色々な工夫を重ねて改善されるように期待している。</li> </ul>
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の積極的な発信</li> <li>安全・安心な学校作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより、学年だよりを月1回以上発行する。</li> <li>新しくなった学校ホームページを月10回以上更新することによって、学校情報を積極的に発信する。</li> <li>安全点検を月1回実施し、学校施設や設備の安全・美化に努める。</li> <li>火災、防犯、地震の避難訓練を学期に1回実施し、事後指導で、身の守り方を再度確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「学校だより・学年だより・学校ホームページなどにより、学校の様子を知ることができる」と回答した割合が90%以上になる。</li> <li>安全点検をもとに、安全に過ごす環境を整えることで、問題のある場所がなくなる。</li> <li>さまざま場面の避難訓練を計画することで、児童がより迅速かつ安全に避難でき、身の守り方について学ぶことができる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて、96%以上が肯定的評価を選択している。ホームページにおいても平均して月10回の更新し、情報を発信することができた。</li> <li>安全点検の結果、学校施設の安全・美化に努め、不良箇所の修繕や報告を行うことができた。</li> <li>今年度は、火災、防犯、地震と避難訓練を行った。避難経路や避難の仕方、身の守り方について考えることができた。</li> <li>保護者アンケートでは「ご家庭では、防災や防犯について話をしていますか。」の項目で83.6%と少し上がったので、このまま啓発を続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きホームページの更新回数を充実させることで、お知らせや日常の様子など、学校の情報を積極的に公開していく。 配備されたタブレット端末を学習で積極的に活用することで、やむをえず登校できない児童に対する学習保障や、情報の共有に活用していく。</li> <li>児童がいざというときに自分で身を守るように、避難訓練の仕方や形態について、見直し、改善を行っていく。また、安全に関する研修を全職員で行っていくなど、児童と共に教職員の危機管理意識の向上に努めていきたい。そして、子どもや、保護者にも防災の意識を持ってもらえるように、毎年ランドセルに避難場所などが書かれたカードを入れるようにしたり、こども防災手帳を活用し、啓発をしていきたい。</li> </ul>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新頻度はすごいです。これを定期的に保護者に告知していくといいと思う。</li> <li>学校の情報（各たより、ホームページ等）について、保護者が90%以上の肯定評価をしていることは、全教職員の努力の成果と考える。</li> </ul>

学校関係者評価の総括

- コロナ感染の脅威と闘いながらの教育活動は、大変だったと思います。構想は、大きく狂って当然だと思います。その中で何が出来るか、最善の方策をお願いします。
- コロナ禍でよくやっただいただいていると思います。基本的な方針や改善案は問題ないと思いますので継続して進めてください。あと、タブレットの活用も是非ご検討ください。
- 令和4年度の学校経営方針において、算数科だけでなく、全領域で主体的・対話的で深い学びの実践を願っています。

次年度に向けた重点的な改善点

- 国語の授業への創意工夫（子ども達が、楽しんで学べるように）
- 読書が好きになるような仕組み、きっかけ作り
- コロナ禍をふまえた、屋外活動や代替行事、遊びや運動を考えること
- タブレットを使ったIT化に沿った教育活動の推進